

第九回オール慶応ブリズベン囲碁ツアー報告

氣賀康夫

囲碁三田会の金澤拓平日洋航空社長が所有するオーストラリア・ブリズベン市郊外のビラを活用しての囲碁ツアーは今年の第九回が最終回になる可能性があると言われ、今回の参加者はそれぞれの思いでツアーに加わったことと思います。



1. ラミントン国立公園 オライリのユウカリ林で 野鳥と戯れる

このツアーの企画は最初2000年頃からユニコン倶楽部で話し合われていました。その企画が「瓢箪から駒」で実現を見たのは、ユニコン倶楽部が破綻し、そこにあった囲碁同好会が銀座慶応囲碁クラブと名を変えて茅野さんのビルで集まるようになった後の2004年のことでした。師範に根橋さん、団長に氣賀が指名され、第一回のツアーが実際に企画されたのです。

このツアーの特色はその内容が文字通り手作りであるという点です。航空券は日洋航空が手配する格安航空券であり、宿泊は金沢さんのビラです。そして、食事については朝は寮長の手料理の和食です。昼と、夜は原則外食です。また、移動はレンタカーで行い、運転手は参加者の有志が担当するという具合です。第一回の企画に際し日本棋院の紹介でブリズベン囲碁クラブと連絡が取れ、交流対局をしようということになりました。

ツアーの目的は囲碁を通じての交流が第一ですが、目的の第二以降はワイン、オーギービーフ、ゴルフ、観光、カジノ、競馬などなど、遊び方はそれぞれの自由です。金沢社長のお人柄はどちらかというとドイツ人氣質の几帳面とは逆の、イタリア人氣質の樂觀主義です。このため、第一回から予期しない奇妙なハプニングが続出しました。いま思い出しても笑いが止らない事件が沢山あります。しかし、はっきり言えることは、そのようなエラーをカバーしても余りある楽しい思い出も沢山あったという事実です。その証拠が2005年の第二回の実施であり、このときはレピーターと新規参加者がだいたい半々となりました。



1-2. ブリズベン川ディナークルーズの様子 左から塚本、猪尾、金澤、氣賀、野村

この比率自体がこの企画の成功の証しです。それからは、毎年ツアーが企画され、今回は第9回を数えるに至りました。その間、健康を害された根橋さんから山下さんに師範が交代しました。また、この両名が参加できず、野村さんが師範を勤めた年もあります。この野村さんの師範役も大好評でした。そして、その野村さんが9回全部に参加された唯一のメンバーです。（金澤社長、団長氣賀を除く。）今回、初日にその心境を発露する印象的なご挨拶があり、参加者に多大な感銘を与えました。そして、金澤社長は野村さんに感謝状と記念品を贈呈することにしました。



2. 名物日洋鍋による晩餐会 左からホレーショ幹事、成島、ハーディ元幹事、金澤、山下、ベル会長

さて、今回がツアーの第9回目ですが、実質上有休資産であるこのビラを有効活用しようという話が持ちあがっており、有利な売却や一括賃貸の契約ができる可能性があるというので、今回が最終回になるかもしれないという話になりました。今回の参加者は12名、上は山下師範の九段格、ツアー中の対局はリーグ戦4局の対局がセットされ、上部リーグ6人は全員が六段格以上、したがって、五段は下部リーグです。そして、下部リーグの6人のうち5人が五段格で、猪尾さんお一人が初段格という構成です。猪尾さんはツアー参加を決める前から「僕のような弱い人が参加していいのだろうか？」と遠慮がちだったのですが、勿論ツアーは棋

力が上の人が威張る集まりではありません。

さて、リーグ戦は4日かけて各人が4局打ち、修正スイス方式で順位を確定し、上部リーグは野村七段が優勝、塚本七段が準優勝となりました。また、下部リーグは金澤五段が優勝、富田五段が準優勝となり、最終日に表彰を行いました。

そして、プリズベンとの交流ですが、土曜日の午後に親善自由対局を行い、夕食は名物の日洋航空鍋で参加者を接待しました。そして、翌日曜日が恒例の親善試合です。いつもは全参加者が二局打つのですが、今回は、プリズベン囲碁クラブのベル会長の提案で、公式対局の前に、プリズベンの級位者を対象とした置き碁の指導碁を一局打つことになりました。そして、その後で、先方の提示するメンバーと二局打つことにしました。この恒例の対局の結果は15勝9敗となりました。この結果、ツアーの通算成績は8勝1引き分けとなりました。この日は夕食がプリズベン側の主催で、美味しいビーフをベル会長自身がバーベキューセットで焼いてくださいました。食事のとき行われた表彰式で、ベル会長杯がベル会長から山下師範に手渡され、オール慶応団長賞のワイン半ダースは氣賀から山下師範に手渡されまし

た。このワインは夕食のときみなで開栓して頂くのが慣例です。

夕食が終わると、そこここで親善対局が始まりますが、プリズベンの方々が帰宅されたあと、少しの時間ですが、反省会と証する打ち上げ会をやりました。そして、翌日の帰国便が早いので夜は早めに切り上げ床に入ることにいたしました。

それでは最後に囲碁以外の活動を報告しましょう。

フライトが月曜日の夜行便であったため、到着は火曜日の早朝となります。眠れぬ夜行便のため全員寝ぼけまなこでゴールドコーストに出て、そこで現地囲碁クラブの宇佐美葉子さんと合流、その案内で朝食となりました。ここで金澤社長の携帯電話が突然鳴り、空港から「日洋航空のタグがついた荷物が一つ残っているの、取りに来るように」との連絡がありました。タグが



3. 公式親睦対局風景 手前は成島ベル戦、真ん中に菊田の顔が見える

あるなら、参加者の誰かの荷物だろうと金澤社長が判断したのは当然です。朝食中の参加者一人一人に社長が「あなたは荷物を1個忘れていませんか」と質問して回りましたが、不思議なことに「私です」という応えがありません。最後に、金澤社長が「アッ、俺だ！」と叫び、一件落着となりました。到着ロビーで荷物を取るとき、団長は金澤社長の荷物が少ないことに気づき、ご本人に、「荷物がまだあるのでは・・・」と申しあげたのですが、「あちらのカートに荷物が載っています。」との応えであり、まさか、最後まで大きな荷物を1個置いたまま空港を出てしまうとは思わなかったのです。

この日は、大阪から飛んだ菊田さんを迎えるため新規参加者を集めて有名なQ1の展望台に案内し、それからカランビンの野鳥園を見学した後、空港に菊田さんを出迎えることにしました。一方、レピーター一行は宇佐美さんが勤める会社が管理しているゴールドコーストの別荘の売り物件、短期賃貸物件を見学することになりました。このとき案内された売り物件で約1.5億円という家は驚くべき豪華物件であり、見学者はみな等しく感心しました。部屋が幾つあったかが正確に記憶できないほどの大きさですが、バー、シアタールーム、ビリヤードルームなどが印象的であり、庭にはプールがあって豪華ホテルに泊まっているような雰囲気です。不動産に詳しい山下師範はこれは日本なら10億は下らない物件だと評価しました。宇佐美さんの説明では、最近現地の景気が悪く、この物件もつい最近までは、2.5億で売り出していたものであり、買う気があれば交渉でまだ一割くらいは引くでしょうとまで言われましたが、参加者で「じゃあ、買おう！」と言う人はさすがに出ませんでした。さて、この日は夕方に金澤社長のピラに入り、近くの中華料理屋で結団式という恒例の運びとなりました。ここで、皆勤賞の野村さんを顕彰し、野村さんが印象的な謝辞を述べること

給油ノズルを差し込んだのが車の給油口ではなかったので、ガソリンがタンクに全く入らず、地面にもれてしまっていたのだと判明しました。これはたいへん危険な事態です。もしも、誰かがタバコの火でも点けたものなら爆発の危険もあったでしょう。幸い、火の気がなかったので急いで給油を終えてその場を立ち去ったそうです。まあ、それから20分もすれば、漏れたガソリンは蒸発するでしょうが、その前に次の車が来てタバコの吸殻でも捨てたら問題だったと思いました。幸い、翌日の新聞やテレビで事故の報道がなかったようなので、無事だったと思われます。帰宅して漏れたガソリンの量が話題となり、ある人は20リットルは漏れたと説明し、金澤さんは2リットルだったと主張しました。実際は、おそらくその間だったのでしょう。

金曜日はゴルフ組みは朝の出発ですが、天気が怪しいのです。この日にゴルフを降りた塚本さんが晴男であり、この日に加わった猪尾さんが雨男に違いない皆でからかいました。ゴルフの四人以外は午前中はのんびり囲碁を楽しみました。外では、ときどき熱帯特有の猛雨の音がして、ゴルフ組は大丈夫だろうか心配になりました。このグループは午後は車でプリズベン市内に繰り出しましたが、カジノ組、博物館組とメンバーが分かれましました。そして、一部有志はこの日の夜のプリズベン川ディナークルージング



5. ベル会長による勝利団体賞の贈呈 山下師範が代表で受け取られた。

に参加の予定です。ゴルフ組からクルージングに参加した猪尾さんのお話では、あまりの豪雨で、プレーはハーフで中止し、ゴルフ場と値引き交渉をした結果、昼食とワインがただになったとのことであり、その交渉にあたった金刺さんの語学力に感心することしきりでした。

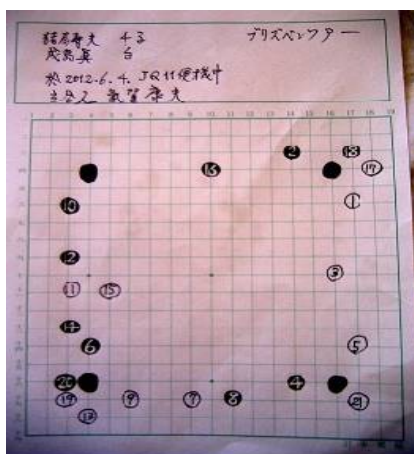
このクルージングの夕食は牡蠣、海老など海産物を中心とするビュッフェスタイルで、なかなか楽しめます。

土曜日は最初に書いたとおり、午後からプリズベンの方々が集まりはじめたのですが、数人が競馬に行くということになり、残るメンバーが思ったより少ないので、団長は手合いのセットに苦労しました。幸い、競馬組の帰宅が早めで助かりました。聞くと、競馬が初めての二人がたまたま勝った馬券がたいへんな大当たりになり、大儲けしたとの明るいニュースでした。ベテランの山下師範はそんな無茶な馬券は買わないので、それほどの儲けにはならなかったようです。「素人は怖い！」という話になりました。この日の親善対局で団長は元オー

ストラリア囲碁協会会長のハーディさんと一局お手合わせをしました。ハーディさんは現地の四段、日本の段に換算すると五段ですから、握りで対局しました。途中でハーディさんは写真を撮り、東京の金子裕二さんにEメール添付で送るのだとおっしゃいました。そういえば、翌日の恒例の親善対局の結果を示すボードも写真に撮って金子さんに送付したらしく、帰国した日に囲碁三田会のホームページの掲示板に載っているのにはびっくりしました。便利な世の中になったものです。

さて、月曜日帰国便の朝は6時半の出発で、金澤社長が起床の鐘をカンカンと鳴らすという約束だったのですが、私が6時に起きて6時20分ころロビーに出ると、まだ鐘はならず、金澤社長と猪尾さんだけ姿がありません。部屋のドアをノックしてみると、このお二人は目覚まし時計が役に立たず、まだ寝ておられました。「あと10分で出発です!」と申しあげると、二人は慌てて見繕いし、10分遅れくらいでロビーに現れました。忘れ物がないか心配です。

さて、金澤さんの失敗談をいくつか暴露しましたが、罪滅ぼしに団長の失敗談を最後に白状



6. 帰国便機中対局の棋譜
途中までの棋譜で、最後は
149手まで打たれた。

しましょう。帰りの荷物の荷作りは前日の夜にやったのですが、点検不足であり、大切な財布をスーツケースに入れたままにしてしまい、空港でチェックインしてしまったのでした。現金があまりポケットに残っていない状態だったので、空港での買い物がままなりません。それと、我々の利用する格安航空券の場合、機内では食べ物飲み物は一切出ません。飲み物はコーヒー一杯でもクレジットカード決済です。現金は豪ドルも使えません。ということは、カードがないとお茶も飲めないという事態です。仕方なく、猪尾さんからお金を借りて、空港ロビーで機内でも出発数時間後に取りのべき昼食のサンドイッチを買いました。そして、機中では飲みたい紅茶も買えない始末、最後に猪尾さんにビールを一杯ご馳走になり、ようやく喉の渇きを癒すことができました。

成田でスーツケースをあけて財布を取り出したときはホットしました。これがないと成田から自宅までの旅費に困る状態だったので。海外旅行では荷物の点検は大切だと人に助言しながら、自分が大失敗し、そろそろ認知症かと自覚をさせられるツアーでした。

帰りの便は大体9時間のフライトです。夜行でないのが楽なのですが、退屈はします。そこで、機中で成島さんと猪尾さんに一局対局をお勧めし、私が立会い人を勤めました。これは碁野紙の上で対局するものです。対局者は着手点を指で示すだけでよく、立ち合い人が白丸と黒

丸を碁罫紙の上を書いて行きます。このとき手順の数字も書き込みます。（白は普通に、黒はネガに数字を表示します。）したがって、終局のときは棋譜が完成しているという仕掛けです。この碁は2時間掛けて149手まで打たれ、打ち掛けとなりました。それは成田到着の時間が迫ることになったからです。

成田で自由解散となりました。今度はみな荷物を忘れずに、楽しい思い出を胸に無事お帰りになったものと思います。